

医師の異動（3月）

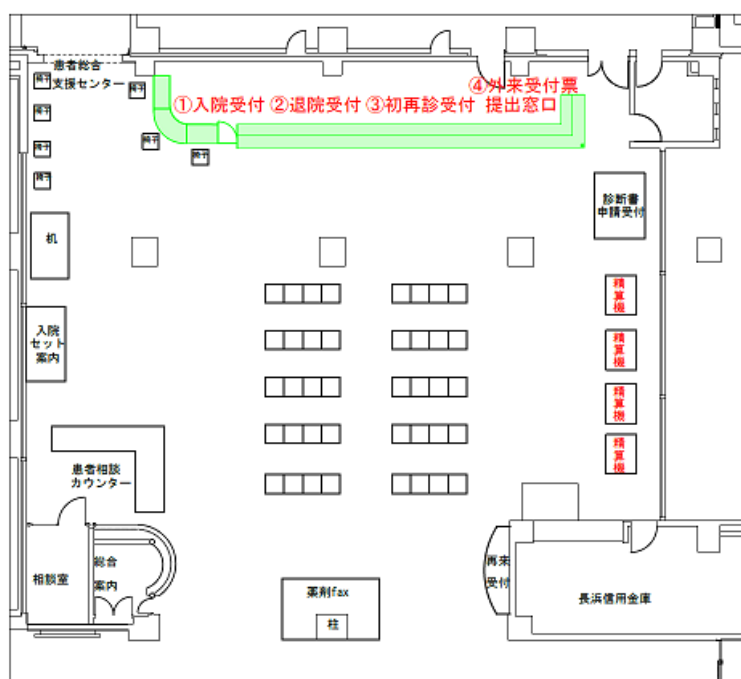
■着任（令和7年3月 1日付）

総合診療科 嘱託医 佐藤 岳史

■退職（令和7年2月28日付）

ありません

もっと市民に愛される病院へ 総合待合ホールの受付をプチ改良



正面玄関直ぐの総合待合ホールの略図

総合待合ホールでの患者動線改善の取組み

当院正面玄関に入って直ぐ右側、曳山子ども歌舞伎の2枚の大きなステンドグラスからの優しい光に包まれる総合待合ホール。入退院・外来受付、会計に医療相談など当院利用者がまずご利用いただくところです。

現在（実は開院以来）、医事課受付カウンター内の入院受付はフロア東側（伊吹山側）に配置しております。

この度、入院される患者さんが受付をする際に、入院支援を行う患者総合支援センター受付と間違えてお見えになることがあり、入院受付を西側に移し、「入院」関連受付をホール西側に集約します。外来受付や会計窓口、自動精算機は東側に集約します。

今までわかりにくいとお声いただきましたが、少しでもご利用しやすい受付窓口をめざします。3月10日（月）から運用開始予定です。職員が案内にたちますのでお気軽にお声がけください。

開放型病床生涯教育研修会兼臨床研修医による症例報告会を開催

第3回：令和7年3月6日（木）17時30分～19時10分

講師：福森 強介氏・金井 克行氏・星野 彰太郎氏・北野 玲奈氏

会場 市立長浜病院 本館2階 講堂（集合研修のみ）

申込み方法等 FAX またはメールにて、開催日前日までにお申込みください。

FAX 番号 0749-65-2730

問合せ先 患者総合支援センター 地域医療連携室

担当 堀江 Tel 0749-68-2300（代表）



■■ 編集後記 ■■ 令和6年度の最終号をお届けします。よく届けられたなあと少しだけ感謝しています。お読みいただいた皆様と執筆いただいた職員の皆様に感謝申し上げます。

今年度は、看護師をはじめとする医療従事者の活動を多く取り上げました。最後のご紹介は、右のとおり「看護師になろう」当院でなくても湖北医療圏域でお願いします。

看護師になろう

市立長浜病院

優しさを原点に

当院の看護師は、みんな優しい優しさが全ての原点です。そんな「当院の看護師についてもっと知ってほしい」という思いで、手作りのPR動画を公開しています。当院で働いている若手看護師に、看護の仕事や職場の様子についてインタビュー。実際に働く看護師の姿・声をご紹介します。ぜひご覧ください。

●動画内イメージ



採用PR動画公開中



<https://youtube.com/pipVMS62A>

市立長浜病院

令和7年3月1日号

理念

地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、地域完結型の医療を推進します。

地域医療連携だより

No.240

もっと市民に愛される病院へ

市立長浜病院
患者総合支援センター 地域医療連携室



救急告示病院 地域がん診療連携拠点病院 がんゲノム医療連携病院
地域医療支援病院 日本医療機能評価機構認定病院 厚生労働省臨床研修指定病院



謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。3月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

各領域の専門科・多職種、地域との連携で患者の全身を診る科

総合診療科のご紹介

総合診療科部長 島本 綾子



平素は格段のご高配を賜り、誠にありがとうございます。先生方には滋賀県の医療を支える礎として日々ご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

2024年度より市立長浜病院総合診療科を担当しております島本綾子と申します。2017年から当院腎臓代謝内科に所属しており、そちらでご存じの先生もおられるかもしれません。もともとは2014年から2016年までの3年間、他院で総合内科医として勤務していました。より幅広く、より柔軟に様々な患者さんに対応ができる Generalist を目指し、当院腎臓代謝内科で経験を積ませてもらい、その経験と知識を糧にこの度総合診療科医として歩み始めました。

2017年より総合診療科は19番目の基本領域に位置づけられました。当方が研修医だった頃には曖昧だった総合診療科に明確な定義ができ、高齢化による併存疾患の増加と医療の細分化・専門化に伴ってそのニーズと重要性も高まっています。

日本専門医機構が目指す総合診療科とは少し異なるかもしれませんが、当科は「各領域の専門科・多職種、地域と連携しながら患者さんの全身を診る科」であり、「当該科ではない」疾患はないと考えています。（もちろん当初から専門科が見た方が望ましい症例もあります）

有体に言えば「どんな患者さんもとてあえず診てみよう」、そういった心持で「断らないこと」を科の信条としています。

2024年6月に湖北医師会にて総合診療科の本格的な始動のご挨拶をさせていただき、地域の先生方から6ヶ月で約30近いご紹介をいただきました。その症例一つ一つが、産声をあげて間もない総合診療科の礎を築いていきます。当方も総合診療科としてようやく一歩踏み出せたかな？程度の若輩者ですので、様々な経験を積むことが今後の湖北地域の医療へ貢献につながると考えております。診療科に迷われる患者さんがおられましたら、総合診療科を選択肢として考えていただけますと幸いです。

本年3月より以前当院で勤務されていた佐藤岳史医師が新たに総合診療科に加わり、2人体制となりました。マンパワーも増えますので、緊急で総合診療科に診てほしい、などのご要望にもできる限り柔軟に対応していく所存です。佐藤医師のリハビリテーションや各種神経疾患に関する Specialist と総合診療科の Generalist を融合し、さらにステップアップするべく日々共に邁進していきたいと思ひます。

市立長浜病院総合診療科を今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。



令和6年度 患者総合支援センター活動報告

患者様への切れ目のない医療提供をめざして

互いの職種を尊重・協力し 全員で患者様へ安心の医療サービスを

患者総合支援センター副センター長兼地域医療連携室参事 草野 美樹



2025 年、2040 年を見据えた地域包括ケアシステムの深化に向けて、患者・家族が安心して入院生活を送れるよう地域・外来・病棟をつなぎ、多職種との連携をさらに深めることが求められています。そこで地域医療連携室では、“患者様への切れ目のない、医療の提供が図れるよう病診連携・病病連携を推進”と”互いの職種を尊重し、協力して事業を推進する”という基本方針を掲げ、各グループがそれぞれの役割を発揮し活動してきました。

詳細はグループ毎の取り組み実績をご参照ください。

また、今年は市立長浜病院創立 80 周年を迎え記念事業として琴浦良彦名誉院長より病院の歴史などの基調講演がありました。長い歴史の中でこの病院が担ってきた地域医療の様々な功績を知ることができました。今後も引き続き地域の関係各所の方々との連携を深め、地域住民の健康を守ってまいりますのでよろしくお願いいたします。



地域連携グループ 尾崎 千鶴

日頃より数多くの患者様をご紹介いただきまして、ありがとうございます。

令和 6 年度の紹介患者数は前年度同様 12200 件程と見込んでいます。

診療科によってはご予約の制限をさせていただいており、ご予約がお取りにくい状況となっております。できる限り診療科と調整を図り、スムーズな受け入れができるように努めて

まいります。ご不便をおかけして申し訳ありませんが、ご理解のほどお願い申し上げます。

今年度、がんゲノム医療連携病院としてがん遺伝子パネル検査を実施しております。21 件のご紹介をいただいております。

今後も地域の先生方との連携を密に図れるように、スタッフ一同取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



入院支援グループ 服部 直美



入院支援看護師は、入院決定した時点から患者・家族と面談し病状や入院前生活状況を聞き取りアセスメントを行い、退院後の生活を見据えて必要な支援が途切れないよう他職種へ情報提供しサポート介入していく事が役割の 1 つです。

昨年度から日中の緊急入院患者の介入も開始し、今年度は 6 割程度の実績となりました。予定入院では 8 割程度の介入が出来る様になり、入院が決定したタイミングで介入する事でより十分に情報収集が可能となり、患者・家族の気配りや心配事以外も医療者の視点でサポートの必要性を入院前からキャッチできると思っています。検査や周術期の患者には特に事前のリスク評価を行い専門的視点で薬剤師や歯科医師、栄養士、理学療法士からの説明、指導が行われています。

意思決定の支援や退院阻害因子を早期の段階からアセスメントし、院内だけに留まらず地域医療者へも確実にバトンを繋いでいけるよう体制を整えています。



退院支援グループ 依田 百代



当院は入退院支援加算 1 を取得し、入院から退院までの切れ目のない支援が提供できるよう努めています。在院日数の短縮化、高齢世帯の増加・核家族化に伴う介護力・支援力の低下、生活困窮など様々な課題のある中で、支援の必要な患者様にタイミングを逃さず介入していけるよう入院前入院直後の退院支援スクリーニングを強化しています。入院中は、患者・家族様の意思決定支援を大切に、多職種と連携しながらできる限り住み慣れた地域での療養生活が継続できるように入院中から退院前訪問や退院後訪問を実施し支援を進めています。今年度の退院支援件数は 2,000 件を見込んでいます。



また地域医療連携室内の病診連携・入院支援・在宅療養支援グループとのつながりを深め継続した支援の充実を目的とし、困難事例に対する進め方や振り返りも含めた事例検討会を定期的に継続して実施しています。

今年度から療養病棟縮小もあり、かかりつけ医の先生方をはじめ、地域医療従事者の皆様とより一層連携を深め、患者様の安心・安全な在宅療養生活の提供ができるよう取り組んで参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

総合医療相談グループ 河野 真弓



総合医療相談グループでは、患者様やご家族、地域の医療・福祉関係者の方からの病気や治療の中で生じる様々な相談に対応しています。相談内容は、受診相談や医療費、ご意見、問い合わせ等多岐にわたり、内容によっては、専門的な知識や技術をもつ多職種と連携し、支援を行っています。また、毎週院内関連部署とカンファレンスにて情報共有を行い、改善や支援につなげています。

ここ数年、外来患者様に関する相談が増えています。グループ内の在宅療養支援看護師や社会福祉士、外来看護師らと協働しながら、在宅サービスの利用支援や意思決定支援等を行っています。今年度は医療相談 4000 件、在宅療養支援 500 件を上まわる見込みです。

今後も、患者様やご家族が安心して適切な医療や介護をうけていただけるように、地域の医療・福祉関係者のみなさまと連携し、支援させていただきますのでお気軽にご相談ください。

＊ ご利用方法 ＊

相談日時 月～金（休診日を除く）8時30分～16時

相談窓口 患者相談窓口（本館 1 階総合案内横）、患者総合支援センター

相談方法 面談・電話・メール 連絡先 (0749) 68-2300（代）



産前産後ケアステーション「にじいろ」 岸本 尚子



「にじいろ」は、安心して妊娠・出産・育児ができる地域づくりを目指し活動しています。産後ケア事業では心身の不調や育児不安の解消・軽減、授乳相談、離乳食相談、休息の確保などを目的に利用されており、湖北・湖東圏域の 5 市町と委託しています。今年度は、産後ケア事業がユニバーサル化となり、大変多くの方にご利用いただきました。

にじいろの支援は母親だけでなく、そのご家族を含めた支援を行っています。また、パパのための両親教室は、内容のリニューアルを行い、多くのご夫婦に参加していただきました。幼児への性教育は、長浜市内公立の全園に実施し、のべ 1624 名の園児と依頼を受けた小学校低学年 324 名の児童に行いました。今後は保護者の理解を深めるために学校や家庭との連携を勧めたいと考えています。



「にじいろ」は開設 3 年が経過し、ますますブラッシュアップしながら地域に貢献できる活動を継続して参ります。今後とも宜しくお願いいたします。